磯部温泉組合との

意見交換会報告書

令和８年９月２８日

安中市議会　経済建設常任委員会

意見交換会報告書

委員会名	経済建設常任委員会
参加議員	安中市議会議長 佐藤 貴雄 経済建設常任委員会 委員長　巽 久男　　副委員長 池島 利明 委　員　畾 次雄、小川 剛、吉岡 完司 司会　議会改革推進特別委員会 住民参画部会長 小林 克行 ※櫻井喜久江委員は欠席
意見交換団体	磯部温泉組合
団体参加者	組合長 田村 光三 副組合長 大手 貴博、原田 三重子 理事 今井 克彦、羽毛田 孝俊、萩原 淳史、依田 沙希、浅井 亜希子
日程及び場所	令和8年9月28日（月）19:30～21:00　磯部温泉会館
テーマ	磯部温泉街の振興について
内容	【磯部温泉の振興について交わされたテーマごとの意見交換内容】 1．空き家・空き店舗の利活用について 駅前を中心に空き家・空き店舗が増加し、景観の悪化や温泉街のブランド低下が懸念されている。改善策や支援体制など、利活用の方向性について意見交換を行った。 【主な内容】 ・駅前の空き家・空き店舗を短期間で借りられる仕組みを整え、学生や若者が販売、飲食、催しなどを試行できる場所にしてはどうか。 ・既に空き家を宿泊施設やコワーキングスペースとして活用した事例もある。 ・所有者が貸し出しに慎重であること、遠方に住む相続人との連絡、土地と建物の権利関係、建物の改修費などに障壁がある。 ・市から不動産業者へ委託して物件をリスト化するなど、利活用者への支援策を検討してほしい。 ・店舗を開きたい人向けの相談窓口を設けてほしい。 ・4年前に市から空き家調査への協力依頼があったが、それ以降、市での進捗が伝わっていない。報告を求めたい。 ・温泉街の活性化のためには、草津の湯畑、伊香保の石段のようなモニュメントが磯部にもほしい。 2．磯部駅のバリアフリー化について エレベーターの設置について地元から強い要望が寄せられている一方で、乗降客数、補助制度、整備費用などの課題も多い。こうした状況を踏まえ、エレベーター設置の必要性、乗降客数と補助制度、南口改札、入湯税活用の可能性など、整備の見通しについて意見交換を行った。 【主な内容】 ・磯部駅にはエレベーターがなく、荷物を持つ高齢者や観光客が移動しにくい。

	・JRとの協議や整備の見通しを知りたい。 ・磯部温泉の活性化のためには磯部駅のエレベーター設置は必須と思うが、話が進まないのはどうしてか。 ・磯部駅の乗降客数は現在 2,000 人未満。補助制度の条件は緩和されてきているが、国や県からの補助金を活用するためには、乗降客数を増やす方法を検討する必要がある。 ・乗降客数を増やすために南口改札の設置も有効と思う。 ・入湯税を整備費用に活用できないか検討してほしい。 3.悪臭対策について 温泉街に漂う悪臭が宿泊客や周辺住民に影響を与えている現状を踏まえると、改善に向けた対策の強化が求められている。現状と対策の方向性などについて意見交換を行った。 【主な内容】 ・悪臭で磯部のまちは非常に悩んでいる。 ・宿泊客への影響を考えると切実な問題である。 ・陳情もしているが、一向に変わらない。 ・柳瀬川も臭いの原因となっている可能性もある。 ・市では臭気測定を行っている。基準を複数回超えたこともあり、改善措置を講じる必要がある。 ・市では「共存」を考えたいとしているが、住民や観光客への影響を踏まえ、話し合いの場を設けるべきではないか。 ・他の場所でも課題解決した事例はあると思う。実例で解決策を模索すべき。 ・九州で解決された実例もあると聞く。調査してほしい。 4. 源泉の管理について 源泉設備については配管の詰まりやすさ等の構造的課題に加え、薬品代や修繕の増加により、委託料の妥当性にも懸念が生じている。こうした状況を踏まえ、源泉管理委託料、維持管理の状況、将来的な修繕などについて意見交換を行った。 【主な内容】 ・市からの源泉管理委託料は年額400万円。半分は、スケール（温泉成分の付着）を溶かす薬品代となっている。 ・配管やポンプが詰まり、薬品や修繕の対応に経費がかかるため、現状の委託料では厳しい。 ・配管の形状により詰まりやすい箇所もある。将来の大規模修繕への対応も懸念される。 5. 足湯付近へのトイレ設置について 足湯周辺は来訪者が多く、トイレ整備の必要性が指摘されている。来訪者のトイレ需要を踏まえ、足湯周辺整備の方向性について意見交換を行った。 【主な内容】 ・足湯付近の土地に駐車場とトイレを整備する話が以前あったが実現しなかった。計画の経緯と中止理由を確認してほしい。

	・来訪者の需要を踏まえ、トイレの設置を再計画してほしい。 6．磯部駅の駅名称について 駅名の改称は、観光振興の観点から提案されたものであるが、一方で、JR システム改修に伴う高額な費用など、検討にあたっての課題もある。「磯部駅」を「磯部温泉駅」へ改称する提案について意見交換を行った。 【主な内容】 ・以前交渉した経緯もあるが、JR システムへの影響から、約 1 億円の費用が必要と説明された。 ・安中駅と磯部駅間の新駅構想と併せて協議すれば費用を抑えられる可能性もある。検討願いたい。  
市への提言 または要望	磯部温泉街の魅力向上と持続的な地域活性化に向け、磯部温泉組合との意見交換会を開催いたしました。本会では、温泉街の振興に直結する六つのテーマについて幅広い意見が寄せられ、温泉街および磯部駅周辺にはバリアフリー化をはじめ多様な課題が存在していることを改めて認識いたしました。 磯部温泉街の活性化は、地域経済の維持のみならず、住民・観光客双方にとって安全で快適な環境を確保するためにも重要な課題であります。こうした状況を踏まえ、当該区域はバリアフリー基本構想において重点整備地区とされており、行政としても一定の対策を講じていただいているものと認識しておりますが、これらの取り組みを効果的に進めるためには、行政と温泉組合がそれぞれの役割を明確にし、協働して課題解決に取り組む体制を構築することが不可欠であります。温泉街の将来像を共有し、双方が共通の目標を持って取り組むことで、磯部温泉街の魅力向上と活性化に向けた施策の実効性が高まるものと考えます。 また、歴史ある温泉街としての魅力を維持しつつ、地域資源を活かした新たな賑わいを創出することも重要であります。温泉会館の利活用や各種イベントの開催など、既存施設を活用した取り組みについても、今後の展望を踏まえた協議が求められているものと考えます。 こうした観点から、施策の具体化に向けては、活性化協議会等の場においても今回要望するような事項を継続的に議題として取り上げ、十分な意見交換を行いながら協議を進めていただきますようお願い申し上げます。 さらに、今回の意見交換会では、温泉組合への協力依頼や過去の計画に関する意見も寄せられました。具体的には、空き家・空き店舗の物件調査における組合への協力依頼、足湯付近のトイレ・駐車場等の計画に関するものです。これらにつきましては、行政側から温泉組合に対して丁寧な報告を行っていただきますよう求めておきます。

	執行部におかれましても本会の概要を把握いただき、今後の市政運営に反映していただきたく、以下のとおり要望を記載いたします。 1．空き家・空き店舗の利活用を促進するための体制整備 駅前を中心に空き家・空き店舗が増加し、景観の悪化や温泉街のブランド低下が懸念されています。所有者の意向や権利関係、建物の老朽化など利活用に向けた課題も多く、現状を踏まえると、行政側の協力が不可欠と感じます。所有者の意向把握や権利関係を踏まえた事業用物件の相談窓口の設置、短期利用の促進、改修・開業支援の検討など、利活用を促進するための体制整備の構築とそれに向けた必要な協力を要望します。 2．磯部駅のバリアフリー化に向けた整備 エレベーター設置については、地元の切実な要望です。乗降客数、財源などの課題はありますが、費用対効果や設置後の温泉街の展望などについて地元と協議を重ね、設置に向けた協議と前向きな検討を要望します。 3．悪臭対策の強化 悪臭は、観光客の満足度や地域住民の生活環境に直結する深刻な課題です。臭気指数の測定結果や市の対応状況などの現状を的確に把握し、対策の一層の強化を要望します。加えて、同様な事例を解決した自治体の手法についても調査研究を行い、対策の高度化を図ることを求めます。 4．源泉設備の維持管理 源泉設備については配管の詰まりやすさ等の構造的課題に加え、将来的な大規模修繕への対応も懸念されています。現在の委託料や中長期的な修繕計画と必要経費について温泉組合と協議し、持続可能な維持管理体制を構築するよう要望します。 5．磯部駅の駅名称変更に向けた可能性の検証 「磯部温泉駅」への改称について、費用対効果、観光振興への寄与、新駅構想との関連性などを総合的に整理し、名称変更の可能性について調査研究を進めるよう要望します。